

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース ■3面 読者のページ/まんが/短歌
- 4・5面 "LGBT理解増進法"の問題点/ホットライン/ジェンダーリレー講座
- 6面 タッセルのアクセサリ/母の歴史 ■7面 新婦人のページ/主張/学ぶ・育つ



広島市 若山恵子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

いま聞きたい「戦争と原爆」 被爆者から次世代へ

原爆投下から78年。広島の次世代チーム「結(ゆい)」が企画した「いま聞きたい『戦争と原爆』」で、会員で被爆者の矢野美耶古さん(92歳)に話を聞きました。また、各地のとりくみも紹介します。

軍都広島で育って

私が生まれた1931年は、日本が中国東北部に侵略戦争を始めた年。生まれた時からずっと戦争だったんです。その頃、広島市の南の端、宇品に住んでいました。G7サミットの会場になったところで、まさにこの宇品から兵隊さんが大陸に出征していったんです。

「戦争、核兵器のない世の中に」と言い続けます

広島県 矢野美耶古さん

広島に原爆が投下されたとき、私は14歳で女学校の2年生でした。3年生は軍需工場に行き、私たちは建物疎開の手伝いに出ました。ちょうど今の平和公園のあたりです。8月6日、私はおなかをこわして休んでいたのですが、こうして生き残ることができましたが、その日、出ていた先生と生徒50人は全滅しました。

「生き残り」と言われ

私は、爆心地から南に4分

離れた家の中にいました。突然爆風で吹き飛ばされ、家はめちゃくちゃに壊れたのに、爆弾の落ちた形跡はないの。家がお宮(神社)だったので臨時の救護所となり、大勢の逃げてくる人を看護しました。翌日から私の仕事は死体を焼くことで、放射能をたくさん浴びた人の手当てをしたわけです。

くれた」と家族が言ってくれたのが、うれしかった。

内部被ばくだった

私の家族は、内部被ばくなんです。私もやけどやケロイドはないけど、体の中には当時のガラス破片が入ったまま。両親と姉はがんで亡くなりました。私も体調を崩し、貧血がひどく、人を避ける生活です。

活をずっと続けていました。爆心地から4分では被爆の影響はないと言われて、自分は被爆者じゃないと思

っていた。日本政府が隠ぺいをして、裁判での医学や遺伝学の専門家の証言などがあって、私と家族が内部被ばくだったとはっきりわかったのは、60年後のことなんです。

新婦人と出会えて

私は新婦人に会えたから、こうして元気に活動できています。家族以外初めて「よう生きとったね」と言ってくれたのが、新婦人の人たちでした。被爆体験集『木の葉のように焼かれて』を発行してきた先輩たちとともに、自分なりに被爆証言を伝えていこうと思うようになりました。

核兵器禁止条約が発効し、本当なら日本政府が真っ先に調印して、世界を引っ張っていかなくやならぬい。アメリカいいなりに核抑止」と言っているのは許せないです。世界は廃絶に向かっているんですから。



お気に入りの折り鶴文様のブラウスを着て



被爆体験集 『木の葉のように焼かれて』 第57集発行

新婦人広島県本部が発行する被爆体験集『木の葉のように焼かれて』は、今年第57集に。被爆者の聞き書きや手記、「黒い雨」問題、G7広島サミット、広島県本部次世代チームの「軍都広島を歩く」の報告など収録。B5判80ページ、頒価500円(送料実費) / 問合せ: 新婦人広島県本部 Fax: 082-263-0447

次世代企画 オンラインで交流

次世代チーム「結」の企画には、親子など10人がオンラインも使って参加。学校の人が書かれていたの。それから、先輩たちの聞き書きについて歩いて、『木の葉』の編集委員にもなって。そのうちに「あなたが話したいんよ」と言われて、それがきっかけで



広島市内の地図を示しながら

加し、矢野さんから戦争と被爆の体験を聞いた後、質問をしながら交流しました。戦争中は嫌な思いをしていたんですね。とにかく、食べるものがないわけ。おなかがいっているから、非常食の大豆一粒を、最初は皮を食べて、芽を食べて、それから実を半分に分けて。ウクライナの人たちと重なるよね。〈2面へ〉

被爆体験を話すようになったきっかけは? 1964年、近所の方に誘われて新婦人の班会に行ってみたら、そこに被爆体験集『木の葉のように焼かれて』が積ま

